

学校の教育目標	豊かな心 たくましい力のある子
経営の重点	みんなの自信と笑顔があふれる学校

評価基準 A：実践し、効果をあげることができた。  
 B：実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D：実践したが、効果をあげることができなかった

町の重点	評価の観点	ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価(意見)
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ <b>&lt;特色ある学校&gt;</b> 幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	79	B	読書活動やビブリオバトルなど、伝統として継続して取り組むことができた。本好きの児童のビブリオは中身が深い。全校ビブリオとして取り上げ、今後も継続したい。	ビブリオバトルなどの特色ある活動はとでもよいが、休み時間でなく授業時に組み込んで行うとよいと思う。休み時間は、仲間とのふれあいの場として確保したい。 →ビブリオバトルは、今まで通りロング昼休みに行う。全校ビブリオは、年2回行う。福っこビブリオは、負担軽減のため見直す。 27年度以前や28年度当初の計画より進んでいない。連携の音頭取りや定期的な連絡会が必要である。 →こ小連携協議会を定期的に位置付ける。	
	2 <b>&lt;開かれた学校&gt;</b> 学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	88	A	積極的に通信等で児童の様子、学校の様子を知らせることができた。 保護者アンケートの意見を生かして授業改善ができた。		
	3 <b>&lt;資質・指導力の向上&gt;</b> 教職員資質や指導力の向上のため、授業研究とともに、コンプライアンスについての校内研修を組織的・計画的に実施する。	83	A	終礼や職員会議等での資質向上に関わる話を心にとめた。		
	4 <b>&lt;危機管理&gt;</b> 児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	93	A	安全点検を確実にし、すぐに修繕を依頼するなどして改善できた。遊具での遊び方で危険な児童がいたが、その場で指導し、改善できた。	遊具の使い方や遊ぶ場所の指導をもう一度する	
	5 <b>&lt;勤務の適正化&gt;</b> 校務分掌や運営組織等を見直すなどして十分に業務のスリム化を図り、教職員の児童生徒に関わる時間を確保するとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	70	B	高学年のみが残り、大掃除や行事準備を行う時に、先生方全員が参加するよう分担されていたのはよい。 学級掲示がなくなったことはよい。仕事を取捨選択することができた。	行事内容の精選・縮小さらなる厳選をする。行事の準備などで、子どもを残す必要があるのか検討してから残す。不必要な時には残さない。 委員会キャンペーンや全校掲示などを通して、5つの伝統を意識付け、見直しをもって、早めに仕事を完了する。	事務処理をする人を入れてはどうか。金銭的な面でのサポートはないのか。ないとすれば、懇談で話したことは懇談済として所見をなくすなど、従来のやり方を見直す必要もある。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	6 ◎ <b>&lt;校内研修&gt;</b> 校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や児童生徒の教育的ニーズに対応する確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	78	B	指導案の簡略化、研究内容の明確化が進んだ。また、若手の先生方と授業づくりをする中で研修が図れた。	町研から研究の方向が変わってきたが、継続・削除・修正がはっきりしていない。研究の全体構想の見直しが必要。 →研推で明確にする。	
	7 <b>&lt;個人研修&gt;</b> 経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	78	B		人手不足。経年研修に行けるだけでも有り難い。	
	8 <b>&lt;情報研修&gt;</b> 分かる授業のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	81	A	帰りの会などで情報機器の危険性を知らせることが出来た。 保護者を通して、情報機器の使い方の様子を聞き、児童の実態把握に努めた。 必要に応じてICTを活用することができた。子ども達も指し示しながら発表することができた。	ICT機器が古くて使いにくい。起動・処理速度が遅く、デジタル教科書もよく止まる。改善を望む。すきま時間を使っての学習などに、タブレットなどが複数台あるとよいので要望する。 →情報活用部会でも、タブレットの必要性を積極的に働きかけていく。 情報モラル宣言を守り切るという点において指導が必要。1学期同様、職員に対しての研修が行われなかった。 →3学期に情報モラルについての職員研修を実施する。	教育の中の位置付け、AIが入ってからの指導などについて、教職員は見直しをもっているか。教育委員会も見直しをもっているか。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	9 ◎ <b>&lt;基礎基本の定着&gt;</b> 指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	78	B	ドリル学習、計算漢字検定など、こだわりをもって進めることができた。確実な定着につながっている。	思考力・判断力の育成には文章題や長文読解、表現力の育成にはスピーチや討論が必要ではないか。5分朝活動の時間が短くなりじっくり取り組みなくなったと感じる。 →時間は、このまま15分間とする。ドリルやスピーチ会の内容を見直し、中味を充実させる。	授業は全員が静かで、落ち着いて学習している。教職員もよく指導している。文字の大きさ、正しい筆順、丁寧に書くことを指導してほしい。
	10 <b>&lt;個に応じた指導&gt;</b> 指導内容の系統性、教科間・学校段階間のつながりを踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	85	A	算数の少人数指導により、要支援児童に支援する時間ができ、成果が上がった。		
	11 <b>&lt;学習集団づくり&gt;</b> 互いの見方・考え方から学び合うことを通して、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	81	A	学習習慣が確立し、授業の流れをよく理解し参加できるようになった。 小グループでの話し合い活動を指導し、質を向上させることができた。同時に反応も指導することができた。発表する児童が増え、授業に活気が出てきた。	反応も指導する。	

町の重点	評価の観点	ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価(意見)	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	12	<全教育活動を通じた道徳教育>道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる指導体制や指導計画を工夫改善する。	81	A	全校道徳はよかった。	活用性のある指導計画を作成する。	
	13	<道徳の時間>道徳的価値の理解を自分との関わりで考えるとともに、多様な考え方や感じ方に接して物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に生き方についての考えを深める道徳の時間(特別の教科道徳)を充実する。	74	B	全校道徳でいじめをテーマに全校で考えることができた。	全校道徳を来年もやってみるといいと思った。一教員同士、授業を見合う機会を設け、授業力アップにつなげる。	
	14	<心を育む体験活動>ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	89	A	福祉委員会のあいさつタッチキャンペーンによって、温かく元気なあいさつができる児童が増えた。積極的にできる子が増えた。あいさつする気持ちよさを学校全体が感じ取れるようになった。また、キャンペーンが終わっても、進んであいさつタッチをする1年生が増えた。掃除が上手くなっている。また福っこ掃除を通して、無言掃除をこだわるができるようになった。委員会ごとに取組が行われ、子どもの姿が高まった。思いやりの花集会に向けた全員よさ見つけやあいさつタッチキャンペーンなどの全校を挙げた取組によって強化ができた。	キャンペーンが終わってもあいさつタッチを呼びかける。無言掃除をこだわり続けることが必要。ボランティア掃除が昨年より縮小した気がする。参加児童をもっと認めて価値付けし、参加を促す。運動会や音楽会のめあてや振り返りの掲示、思いやりカードの掲示をなくしたので、目標を立てたり、振り返ったりする意識が薄れてきたと感じる。負担が減ったのは確かだが…。	
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	15	<指導計画・指導体制>小学校中学年と高学年、高学年と中学校との接続を踏まえた指導計画を工夫改善し、指導体制を整える。	71	B	カーラ先生と打合わせ、楽しい授業ができた。中学校との連携はあまりできていない。	来年度に向け、スモールトークをしっかり計画に入れた計画を作る必要がある。クラスルームイングリッシュを効果的に使うようにする。→今年度中に全学年の指導計画を作成し、来年度のたたき台とする。	中学校の授業を参観するなど交流を図っていくとよい。
	16	<指導過程>積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	89	A	言語活動では、ゲームなどを通して楽しく行っている。担任がT1となり授業ができています。	簡単な指示は英語で話せるように私自身も勉強したい。	
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	17	<全体計画・指導計画>小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	79	B	計画に沿って進め、講師や訪問する施設などの記録を残した。		
	18	<探究的な学習>身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定した探究活動や指導・援助を充実する。	81	A	各学年ごとに様々な施設を訪問して、体験活動を行っている。	与えられるばかりの学習にならないように、活動の精選、見直しが必要。→児童の主体的な学習になるように、年間指導計画を見直す。3学期の発表に偏りがちだが、1・2学期にも言語活動を取り入れる。→3学期は、地域への発信の場として、全学年が発表を行う。	小学校高学年の児童が作成したプレゼン発表は、よく考えられていた。アンケートをとるなど根拠資料に価値があった。保護者も参観だけでなく、問いかけに答えたり、意見を発表したりするなど参加してほしい。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	19	<指導と評価>児童生徒の自発的、自主的な活動(いじめ問題への取組等)を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を發揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	85	A	いじめ0宣言の改定をする中で、具体的に取り組むことが決まった。福っこ活動を活性化させることができた。係活動や当番活動のやり方が定着しつつある。帰りの会で、係から気付いたことや直すとよいところを伝えることができた。	振り返りを設けることで、意味のある活動にしていく。班活動を指導し、2年生につなげていく。	
	20	<学級経営>学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	78	B	学級のルールが定着してきた。大きな問題もなく、落ち着いた学習に取り組めた。	休み時間に、けんかがあったり、友達に対して、強い言葉で言っている子もいるので指導していく。教育相談を充実させ、一人一人の話を聞く時間を増やしていく。→終礼の時に、5分ほど学年部で学級経営についての交流の機会を設ける。	
【生徒指導】 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	21	<生徒指導(教育相談)体制>不登校や問題行動(いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等)については、全職員が危機意識をもち、早期発見・早期対応はもとより未然防止に重点的に取り組み、家庭や地域・関係諸機関等との情報共有と行動連携を強化し、組織的に対応する。	89	A	にこにこアンケートや教育相談の時間を活用して、児童の悩みや不安を把握し、早期対応ができた。にこにこアンケートで気になる回答に対し、学級担任が懇談をして、状況を把握している。回答により、フリーも把握できた。問題行動後、連携をとって指導にあたり、迅速に適切な指導がなされた。	全員との懇談が位置付くよう、朝の活動を3学期から見直し、一人一人の話を聞く時間を増やし、教育相談を充実させた。教育相談(毎週木曜)が確実に実施できているか見届ける。継続した観察、指導を心がける。全ての学級で有効活用していく。	
	22	<学年・学級経営>一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切に学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	78	B	仲間のよさ見つけは、自己肯定感を高めることにつながっている。	→全教員に各学級の組織表を配付し、全児童の動きに注目する。	
	23	<生命尊重・倫理観・規範意識>全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	79	B			
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	24	<勤労観・職業観>望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動(職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など)を位置づけるとともに、事前や事後の指導を充実する。	78	B	たくさんの校外学習や体験学習をした。係活動を月ごとにどれだけやりきることができたか反省を行い、高めている。係活動や当番活動のやり方が定着してきつつある。	係活動や当番活動を自発的にできるようにする。	
	25	<ガイダンス>一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)		A			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	26	<保健・安全・食>児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	79	B	発育測定時や視力検査時などに指導の時間を設け、児童の実態をふまえた保健指導ができた。歯科検診や歯科指導、薬物乱用防止講座、食育指導など、保健や食に関する指導は充実していた。	養護教諭の指導だけでなく、担任が日常的に児童へ指導することで、さらに健康的な生活を送ることができるようにする。→養護教諭が各学級への給食・歯磨き訪問を定期的し、担任は指導のポイントを学ぶ。	
	27	<運動推進>児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	81	A	朝のマラソン時間の確保、雨天時の業間休みや昼休みの体育館開放など、運動量確保に向けての動きができた。	チャレンジスポーツinぎふの取組に参加する。	
	28	<未然防止>児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を發揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	92	A	健康実態や解決に向けての取組について、学校保健安全委員会等を通して家庭や他機関との共通理解ができた。第2回は学級懇談より前に実施し、学級懇談時に母親委員から保護者に啓発できるようにした。不審者情報がいった時は、下校時に注意を呼びかけ、安全パトロールや下校指導など動くことができた。担任がいけないときの補充計画表に、給食時に配慮が必要な児童についての送付事項を記載する欄を設け、アレンジャーだけでなく、二重のチェックが入る工夫ができた。	疾患や食物アレルギーのある児童について、保護者との定期的な打合せ会を確実に行う。新入生についても同様に懇談を設け、記録に残して引き継ぐ。在校生児童についても保護者に確認し、確実に記録に残す。	



町の重点	評価の観点	ポイント	評価	2学期の成果	来年度に向けて	学校関係者評価(意見)	
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	29	<校内支援体制>特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の一層の充実に努める。	88	A	問題行動が発生時には、すぐにケース会議を開き、対応を確認できていた。ケース会議を開き、担任の困り感をもとに支援員の配置を工夫したところ、該当児童も安定し、職員も学級も落ち着いた中で生活することができた。	「合理的配慮」の具体的な例を聞きに研修会に参加したが、具体的には示されなかった。状況に応じた効果的な配慮を知りたい。	
	30	<個別の支援>本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を發揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	83	A	個別懇談を通して、担任の困り感と保護者の困り感を共有し、検査や診察を進めることができた。	計画に終わらないようにする。保護者との合意の下で個別の支援計画を作成し、個別の指導計画を作り、次年度への送付を明確にする。認知機能訓練を通常学級でも取り入れて、認知機能を高める。支援が必要な児童への個別支援をしていく。保護者との連携をとって、検査も随時実施する。	
	31	<交流及び共同学習>特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的にを行い、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	79	B		通級指導教室で行われているSSTを学級でも行い、通級に通う児童の困り感を理解する学習を位置付け、連携を深める。	
【人権教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	32	<望ましい人間関係>互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	81	A	帰りの会でたくさんかやきみつけができるようになってきた。様々なよさを見つけることができた。ひびきあいの日に向けて、継続的・発展的な取組ができた。あいさつタッチキャンペーンやよいこと見つけに全校が取り組み、勢いのある運動になった。	お互いのよさを認め合う活動が必要。例えば、他学年同士でのかやきみつけなど。	一人一人のよさが位置付けられているのはよいことだ。掃除中であつたが、元気にあいさつしてくれた。PTAでできることは協力していきたい。
	33	<いじめ・差別の根絶>いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	89	A	いじめに対して、にこにこアンケートをもとに継続的に指導することができた。にこにこアンケートをもとに話を聞くことができた。いじめの宣言の具現化が図れた。2件のいじめ報告が上がったが、素早い対応と経過観察を経て今のところ落ち着いている。		毎月アンケートを実施し、教育相談も朝の時間に位置付けているが、いじめといたずらの境は見分けにくい。ポイントをしっかりと教えてほしい。
【情報教育・図書館教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	34	<情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	79	B	各学年ごとに、インターネットやキーボードなどを使って電子機器を使用することができている。ぎふWebラーニングを使ってのおさらい学習が増えた。ICTを使って子ども達も発表することができた。	総合の学習もあるので、パソコン室の割当をはっきりさせる。 →使用学年は、予定表にきちんと書き込む。	
	35	<情報モラル>情報モラル(SNSを介したネットトラブル等)について、意図的・効果的な指導を行う。	89	A	情報モラルについてのクラスの実態を把握したうえで、意図的な指導を行うことができた。町から用意していただいた資料などを使って、スマホやタブレット、パソコンの使用時間などについて指導を行った。リーフレットをもとに情報モラルの指導ができた。	定期的に状況を把握する必要がある。 →情報担当が行う。 親への啓発も必要。 →PTA総会や学級懇談会等を生かす。	SNSによるいじめはすぐに広まってしまうので、小さいうちに芽を摘む。子どものうちからネットモラルを勉強している。大人になってからは遅いのでよいことだ。
	36	<図書館教育>学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的利活用や読書活動の推進に取り組む。	83	A	多読賞を目指して、たくさんの本を借りることができていた。ビブリオバトルやペア読書は児童中心の活動なので、特別支援学級の子も意欲的に参加している。古い図書の廃棄、代本板の変更、推薦図書の刷新に図書館司書がすぐに着手し、使いやすい図書館になりつつある。学級図書の刷新など、各学級担任の意識向上が課題である。委員会の読書ビンゴを通して、様々な分類の本に親しみきっかけを作ることができた。	図書館の使い指導が必要である。読む時間の確保を確保し、じっくり深く読む指導も必要。図書館でのトラブルが多かったので、もう一度、借り方や図書館での過ごし方を全校に指導する。→全校に指導済。次年度に向け、英語用の図書ワゴンを同窓会費で購入した。少人数教室に置き、和英辞典や絵本等の充実を図る。→3学期から、徐々に進める。背の高い本棚を撤去。古い本の廃棄を進め、安全で明るい図書館にする。→図書館司書と相談し、進めていく。	
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる	37	<ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	71	B	地域人材を総合的な学習の時間に活用することができた。	白川踊りのルーツなど、教員も知らない地域の歴史や伝承を子どもたちに伝える場があるとよい。	
	38	<国際交流>国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	75	B	外国語活動は充実している。	5、6年のwritingの位置付けを、職員で確認する機会を設ける。 →来年度の研修にいれる。 仁木小や大敷小の授業を参観して、情報を得る。	
【防災教育】 自らの命を守るための防災意識の向上を図る	39	<防災教育推進>学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	92	A	一回一回の命を守る訓練の動きをしっかりと確認することができた。一回一回の命を守る訓練の動きをしっかりと確認することができた。学校の防災体制を字通り見直す必要がある。児童へのミサイル発射時の対処法の指導がなされたか、確認できなかった。  一回一回の命を守る訓練の動きをしっかりと確認することができた。	職員に対する防災学習を、終礼や職員会議の折に少しずつ入れる。→担当者が少しずつ入れていく。 5年生の総合的な学習では、防災を学習しているが、全校集会や屋の放送などで、全校に対し5分程度の防災学習を行う。→5年生が、総合学習の中で、放送などを使って全校へ発信していく。	通学路での地震発生時、田んぼに逃げるなど、危険なところを避ける感覚を子どもたちに身に付けてほしい。
【家庭学習の充実】 自分の力で学習ができる児童生徒を育てる	40	<家庭学習習慣>家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	79	B	家庭学習の習慣が身についている。保護者の協力もあり、家庭学習の習慣が身につけている。宿題量の見直し、確認を行った。家庭学習パワーアップ週間を通して、児童や保護者が、学習時間や内容について意識を高めることができた。	家庭学習の質の差をうめたい。量と質のバランスが大切。少なすぎてもだめだし、中身が伴っていないダメ。家庭学習ポスターはあまり活用されていないように思う。ドリル以外の自主学習ができない。宿題のページを自分で考えさせることで考える力を養うのでは、本当の自学の力は育たない。家庭学習の内容で考える力を伸ばすよう、質を考えていかなくてはならない。→高学年では3学期自主学習を進める。家庭学習ポスターを毎月活用することで、親の意識を高めた。	